

2017年2月14日掲載

「地理女でインバウンド誘致」

今月、東京で「第1回地理女サロン」を開催した。地図や地形、観光など、地理の分野に興味のある女性を中心に約30名が参加した。私自身が大学で地理学を専攻していたこともあり、地理から地域活性化などにつなげたいと企画したものだ。

近年、歴史好きの女性「歴女」をはじめ「カープ女子」「山ガール」など、女性が中心となりその分野を盛り上げている傾向がある。他方、地理は以前、『話を聞かない男、地図が読めない女』というタイトルの本がベストセラーになるなど、特に女性が苦手としている先入観があった。

しかし地理は農業や工業、都市、人口など、社会に密着している教科だ。さらに北海道をはじめインバウンドが増加し、今月の冬季アジア札幌大会や2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて大勢の外国人観光客が訪れる見込みである。そこで海外の地域・文化を知ること、一方、日本の良さをあらためて知ることによって外国人観光客により深いおもてなしができるのではないかと考えている。

サロンで感じたのは、共通の趣味を通じて集まると、とてつもないエネルギーが生まれるということだ。地理を通じて知り合った方々が連携して、新たな価値を創造していったらいいことを期待している。

22年には約30年ぶりに高校の地理が必修化する見込みである。地域の良さを再確認するためにも、若い世代から地理に目を向ける機会になることを願っている。

(毎日新聞)